

# 東アジア研究科

開設科目	東アジア文化構造形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 先秦史研究の理想的な研究方法を、近着の『近出殷周金文集録』を読みつつ追求する。／検索キーワード 先秦史 金文、三重証拠法
- 授業の一般目標 金文史料を読み解きつつ、二〇世紀中国の代表的研究者の研究方法を理解していく。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：いくつかの工具書を利用して金文史料を読解できるようにする。  
思考・判断の観点：様々な解釈の方法を知り、自らの方法の確立に向けての足がかりとする。 関心・意欲の観点：金文や甲骨文、さらに木竹簡など出土史料に慣れ親しみ、積極的に利用できるようにする留
- 授業の計画（全体） 毎回、一、二篇の青銅銘文を取り上げて、解釈し、同時に過去の研究者の研究方法来に言及する。古典と対照させ、また人類学的知見を援用して解釈する金文研究の醍醐味を味わう。
- 成績評価方法（総合） 毎回、とりあげる銘文については、一定の予習を求めるが、その達成度とレポートによって判断する。
- 教科書・参考書 教科書：『近出殷周金文集録』／参考書：その都度指示
- メッセージ 銘文解釈に対する執拗なまでのこだわりが求められる
- 連絡先・オフィスアワー 人文棟五階 金曜日 15時から 16時

開設科目	日本近世社会形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 「日本近世社会形成特論」：日本近世社会の構造的特質を、萩藩をフィールドにその固有性とともに解明していく。今年度は、萩藩初期政治史、とくに主従制的支配について考究する。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、萩藩
- 授業の一般目標 1. 歴史学の方法を理解する。 2. 日本近世社会の構造的特徴を理解する。 3. 藩権力の構造的特徴を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 日本近世史の研究史の流れを知る。 2. 日本近世政治史の基礎知識を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 1. 比較史的にまた批判的に研究史を見ることが出来る。 技能・表現の観点： 1. 自分の見解を論理的に文章で表現出来る。
- 授業の計画（全体） 萩藩初期政治史、とくに主従制的支配について、その重要要素をとりあげながら、実証的に解明していく。
- 成績評価方法（総合） 定期試験にかえて、レポートを提出させ、その内容によって成績評価をする。レポートは4000字詰15枚以上。
- 教科書・参考書 教科書： 特になし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜の昼休み。

開設科目	日本語文化形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 日本語列島に形成された「日本語」について重層的な成立過程を考えていく。／検索キーワード 日本語の成立
- 授業の一般目標 「日本語」の成立について，縄文時代以降の重層的な成立過程を考えていく。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：「日本語」の重層的な成立過程について批判的な理解を深める。  
思考・判断の観点：「日本語」の重層的な成立過程について受講者自身で考える。 関心・意欲の観点：自国の言語について再認識する。
- 授業の計画（全体） 「日本語」のについて，縄文時代以前，縄文時代，弥生時代，それ以降と期を分けて日本語の重層的な成立過程について述べる。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(933-5249) オフィスアワー火曜日 1:00～2:30

開設科目	中国民衆文化形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟
- 授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。
- 授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。
- 教科書・参考書 教科書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院）／参考書： 荘司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	比較社会意識論形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	辻正二				

●授業の概要 東アジアの国々はいま急激な近代化の時期を迎え、我が国と同様に国際化・高齢化・情報化などの影響下にある。こうした変化は、時間研究の視点で見ると、客観的には単なる物理的・時計的な時間の変化でしかないが、時間意識や時間感覚で見ると、単なる時間の変化以上の大きな変化となっている。そこで、この講義では、時間が現代の社会でどうなっているかを考えたい。現代人にとって時間問題とは何か、時間問題の接近方法について考察する／検索キーワード 近代化、時間意識、退職年齢、エイジング、ライフコース、通過儀礼

●授業の一般目標 (1) 近代化とともに時間意識が変化したことを学ぶとともに、東アジアには欧米とは違う時間文化が存在し、時間意識においても異なることを知識として身につける。(2) 時間についての社会的分析方法や社会的時間とは何かを学ぶ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 時間論で高齢化社会、高齢者を捉えることの意味
- 第 2 回 項目 近代化と時間
- 第 3 回 項目 高齢化社会への時間アプローチ 内容 エイジングの中で 時間を考える
- 第 4 回 項目 日本の高齢化社会 と時間
- 第 5 回 項目 高齢者の生活時間 内容 人生 80 年時代の 高齢者の時間の量 と質、余暇時間、労働時間など
- 第 6 回 項目 高齢者の過去 内容 記憶と忘却
- 第 7 回 項目 一昔前の高齢者の生活（1980年代まで
- 第 8 回 項目 現在の高齢者たちの生活
- 第 9 回 項目 退職という現象 内容 退職のライフサイクル論
- 第 10 回 項目 長寿儀礼の時間論 的意味分析
- 第 11 回 項目 老後の時間の早さ は何によるか
- 第 12 回 項目 元気な高齢者になる
- 第 13 回 項目 高齢者にとっての 死
- 第 14 回 項目 時間論の有効性は 何か
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

●メッセージ 毎回の資料をもとに講義を進めます。

●連絡先・オフィスアワー 辻研究室（309室）

開設科目	日本民俗文化形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	湯川洋司				

- 授業の概要 1. 日本における山村民俗文化史とその現代の変容の意味を考える／検索キーワード 山村 民俗文化 民俗学
- 授業の一般目標 1. 日本における山村民俗文化史を理解する。 2. 民俗学における山村民俗文化研究の占める位置付けを理解する。 3. 日本における山村の現状を踏まえて、現代の変容の意味を考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 日本における山村民俗文化史を理解する。 2. 民俗学における山村民俗文化研究の意義を学史に即して理解する。 思考・判断の観点： 1. 日本における近代化の動きに伴い変化してきた山村の様相とその変容の意味を 考察する。
- 授業の計画（全体） 1. 山村民俗文化史を振り返る。 2. 山村社会の現状を知る。 3. 山村民俗文化の変遷を通じて現代の様相を把握する。 4. 山村社会の未来を新しい動きを踏まえつつ構想する。（具体的には、受講生と相談のうえ決定する）
- 成績評価方法（総合） ふだんの取組状況等を見て、上記の観点に基づき判断する。
- 教科書・参考書 教科書： 受講生と相談して、使用・不使用という点も含めて決める。／参考書： 随時紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文棟 210 号室、電話：933-5279 （内線 5279） e-mail:yukawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	制度動態形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	植村高久				

- 授業の概要 制度論は経済学と社会学とにまたがって発展しており、また経済学においては新旧両制度学派が存在する。まずこれらの検討を通じて、当事者行動と相互関係の基礎理論としての制度論を捉え直す。次にこれを用いて制度の変化と多様性、及びその要因を考究する。これは、社会の多様性及び社会変化を考察するための基礎理論となる。本年度は現代の世界経済において資本主義が示す、多様な制度的諸相を考察し、グローバル化の進展の下にある様々な資本主義や私企業の変容の様相を概括的に捉える。
- 授業の一般目標 経済変化を捉える事例研究に制度論的思考法によってアプローチできるようになること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：制度論の基本概念を理解し、具体的に適用できる。思考・判断の観点：制度論的思考法と新古典派的思考法を区別でき、かつ制度論的思考法によって様々な事象を分析できる。
- 教科書・参考書 教科書：テキストは相談して決めます。

開設科目	開発政策形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	松井範惇				

- 授業の概要 開発経済学の観点から、開発援助および経済協力の理論的・実証的検証を考察する。開発政策研究には、マクロ経済とミクロ経済の整合性、国際経済との関連を研究することが重要である。最新の理論的・実証的研究の成果を取り入れながら、グローバリゼーションの進む世界経済の中で激しく変化する東アジアを中心として、日本のODAなど経済協力の役割を検討する。人口、食糧、資源、技術進歩、環境問題、工業化と雇用問題、国家と市場などのトピックを議論する。さらに、貧困、所得分配の不平等、飢餓、飢饉、生活の質（QOL）、潜在能力（可能性）、特に人間開発の考え方を研究する。
- 授業の一般目標 This course reviews the concept and measurement of Human Development. Through that we aim in this course that students gain firm understanding on the idea of "Capability," "Functionings," and "Entitlements."
- 授業の計画（全体） This class expects lively discussion and participation on the side of students. Lecture will be given occasionally to introduce some new concepts to those uninitiated. Each student is expected to get a firm understandings on the idea of Human Development.
- 教科書・参考書 教科書： Human Development Report, 2004, UNDP, Oxford University Press, 2004 年
- 連絡先・オフィスアワー 933-5530 [npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	国際直接投資形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤原貞雄				

- 授業の概要 国際直接投資研究は、マクロ経済とミクロ経営の融合分野の研究であり、広範囲の知識と明確な研究視点を必要とする。本講義においては、マネージメント・トランスファーの視点から、日本の経営がアジアにおいて如何に適用され、如何に適応したのか、そしてそれはアジアの土着経営にいかなる変化をもたらしているのか、そしてそれは現地経済に如何なる意義をもつのかをケース・スタディを重視して講義する。

開設科目	企業経営形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	長谷川光圀				

●授業の概要 この講義は、大学院の博士課程に在学する学生を対象にするので、高度な専門職業人の養成に関わり、かつまた主に最近の経営問題の動向を紹介し、学習と研究を深めることにある。／検索キーワード グローバル化、国際戦略、ボーダレス化、ネットワーク化、スピード時代、販売時点の情報、情報革命

●授業の到達目標／知識・理解の観点：経営問題について、最新の理解と知識を習得する。 思考・判断の観点：経営問題について、高度な思考と判断能力を開発する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ビジネスのグローバル化
- 第 2 回 項目 文化の相違と国際経営
- 第 3 回 項目 米国企業の最近の経営問題
- 第 4 回 項目 日本企業の最近の経営問題
- 第 5 回 項目 日本企業の中国へのシフト問題
- 第 6 回 項目 日本企業と中国企業の競争
- 第 7 回 項目 日本企業の中国市場への挑戦：サントリー
- 第 8 回 項目 日本企業の中国市場への挑戦：本田技研工業
- 第 9 回 項目 日本企業の中国市場への挑戦：オリンパス光学
- 第 10 回 項目 日本企業の中国市場への挑戦：資生堂
- 第 11 回 項目 中国企業の日本市場への挑戦：ハイアール
- 第 12 回 項目 中国企業の日本市場への挑戦：格蘭社
- 第 13 回 項目 中国企業の日本市場への挑戦：その他
- 第 14 回 項目 日本の企業ネットワーク化
- 第 15 回 項目 日本企業のナレッジ管理

●メッセージ 戦略と基本的な経営問題について、事前学習が必要である。

開設科目	製品原価形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中田範夫				

- 授業の概要 当該形成特論は、東アジア企業経営コース1年次の学生のために開講されるもので、原価管理を中心とする会計分野の講義である。原価意識は企業経営にとって重要であり、また原価計算の発展の歴史は製品原価展開の歴史と表現しても良いほどである。製品原価に関して、全部原価計算と直接原価計算との間で論争が行われた後で、アメリカにおいて活動基準原価計算が提唱され、製品原価に対して新しい概念が提起された。授業では関連する論文を読んでいく。論文については、後日指示する。
- 授業の一般目標 原価管理についての知識を獲得し、その知識を病院へと適用していきたい。
- 授業の計画（全体） 管理会計及び原価計算に関するテキストを使用し、それを報告してもらう形で授業を行う。
- 成績評価方法（総合） 授業への態度および報告によって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：テキスト等については後日指示する。

開設科目	マーケティング戦略形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	米谷雅之				

- 授業の概要 市場創造活動としてのマーケティングは、市場環境の質的变化や情報技術革新の進展によって、今日大きな転換期にある。従来型のマス・マーケティングの戦略的有效性が問題となるなかで、どのようなタイプの新たなマーケティング戦略の展開が求められているのか。特に現代マーケティングの中核をなす製品戦略の形成と展開に焦点を当てながら考察する。理論研究とともに、ケース・スタディにも取り組みながら進めていく。

開設科目	メディアとメディア法形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員					

開設科目	地域政策形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	吉村弘				

- 授業の概要 地域経済に関する論文作成に出来るだけ直接に役立つ授業としたい。テーマは、少子高齢社会における地域産業政策、地域福祉政策、地域社会資本政策などのうちから、受講生と相談して選びたい。
- 授業の一般目標 論文作成に直接役立つ。
- 授業の到達目標／ その他の観点： この授業の成果を自己の論文に直接に生かす。
- 授業の計画（全体） 論文のテーマに沿って、報告する。
- 成績評価方法（総合） 報告によって判断する。
- メッセージ 論文作成という目標に直接に役立つ報告を期待します。

開設科目	東アジア文化と開発形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員					

開設科目	韓国経済形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	横田伸子				

- 授業の概要 1980 年代以降の韓国の welfare-employment regime について分析し、それが韓国の政治・経済・社会の構造にいかに関与を与えてきたかを考察する。とくに、分析する際、ジェンダーの視点を不可欠とする。
- 授業の一般目標 韓国型福祉社会の構造や特徴について理解し、把握する
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1. テキストである社会学専門書の内容を批判的に理解できる。 技能・表現の観点： 1. 客観的な立場から、自己の議論を論理的に展開できる。
- 授業の計画（全体） 韓国の welfare-employment regime に関する学術書や論文を各自に割り当て、その二葉を知りこまにする。その報告を中心に討論する。
- 成績評価方法（総合） 1. 報告 40 %, レポート 40 %, 討論 20 %, 前期に 3 回以上欠席した場合は、単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： テキストは適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。e-mail)ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp  
： 083-933-5559

開設科目	現代企業ファイナンス形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	城下賢吾				

- 授業の概要 今回は行動ファイナンスについて講義をします
- 授業の一般目標 基礎理論の習得
- 連絡先・オフィスアワー sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	市場経済と雇用システム形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	柳澤旭				

- 授業の概要 市場経済といわれるなかで市場システムを支える法の意義や機能について研究する。特に市場経済を支える基盤である雇用システムと法の役割を中心に検討する。
- メッセージ 受講希望者の研究テーマにできるだけ沿った形で問題領域を設定したいと考えています。

開設科目	社会システム分析形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	酒井義郎				

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会システム数理基礎 1
- 第 2 回 項目 社会システム数理基礎 2
- 第 3 回 項目 社会システム数理基礎 3
- 第 4 回 項目 認知科学基礎 1
- 第 5 回 項目 認知科学基礎 2
- 第 6 回 項目 システム工学的手法 1
- 第 7 回 項目 システム工学的手法 2
- 第 8 回 項目 社会システム概要
- 第 9 回 項目 社会関係と社会構造のモデル化 1
- 第 10 回 項目 社会関係と社会構造のモデル化 2
- 第 11 回 項目 人間主体システムの概念
- 第 12 回 項目 人とシステムをつなぐインタフェース
- 第 13 回 項目 社会システムの運用手法 1
- 第 14 回 項目 社会システムの運用手法 2
- 第 15 回

開設科目	東アジア地球科学分析形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	永尾隆志				

- 授業の概要 地球の歴史のなかでさまざまな時代に形づくられた、東アジアの地形と地質について解説する。／検索キーワード 地球史，東アジア，テクトニクス，マグマティズム，日本列島
- 授業の一般目標 東アジアの地形と地質をつくりあげたテクトニクス，日本列島とアジア大陸の地球科学的な関連を理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：東アジアの地形・地質の発達プロセス，それを形づくった地球のダイナミクスを理解することができる。 思考・判断の観点：地形・地質現象から東アジアの発達過程を組み立てることができる。
- 授業の計画（全体） 東アジアの地形・地質について，地球史の中でどのように形成されたのかを述べる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（1）
  - 第 2 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（2）
  - 第 3 回 項目 現在の東アジアの地球史的位置づけ（3）
  - 第 4 回 項目 テクトニクスと東アジア（1）
  - 第 5 回 項目 テクトニクスと東アジア（2）
  - 第 6 回 項目 テクトニクスと東アジア（3）
  - 第 7 回 項目 マグマティズムと東アジア（1）
  - 第 8 回 項目 マグマティズムと東アジア（2）
  - 第 9 回 項目 マグマティズムと東アジア（3）
  - 第 10 回 項目 地球資源と東アジア（1）
  - 第 11 回 項目 地球資源と東アジア（2）
  - 第 12 回 項目 日本列島と東アジアの地球科学的関連（1）
  - 第 13 回 項目 日本列島と東アジアの地球科学的関連（2）
  - 第 14 回 項目 日本列島と東アジアの地球科学的関連（3）
  - 第 15 回 項目 期末テスト
- 成績評価方法（総合） 期末試験・レポートを下記の観点・割合で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：特に指定しない。
- 連絡先・オフィスアワー 理学部 340 号室 e-mail tnagao@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	発達心理学形成特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	堂野佐俊				

- 授業の概要 「比較発達心理学形成特論」として、文化圏の異なる地域における発達心理学的研究に関して、比較文化的立場で論考する。／検索キーワード 心理学、発達心理学、ストレス、臨床心理学、適応
- 授業の一般目標 「比較発達心理学形成特論」として、文化圏の異なる地域における発達心理学的研究に関して、比較文化的立場で論考する。東アジア諸国における子どものストレスについてのテーマが中心となるが、特に、「台湾－日本」及び「中国－日本」の研究についての理解に焦点を当てることになる。
- 授業の計画（全体） 「比較発達心理学形成特論」として、文化圏の異なる地域における発達心理学的研究に関して、比較文化的立場で論考する。東アジア諸国における子どものストレスについてのテーマが中心となるが、特に、「台湾－日本」及び「中国－日本」の研究についての理解に焦点を当てる。
- 成績評価方法 (総合) 毎回の資料に基づく発表の内容が評価の対象となりますが、授業への出席状況や意欲・態度も全体の評価として考慮されます。
- 教科書・参考書 教科書： 特には指定しません。／参考書： その都度、資料を配布します。
- メッセージ 積極的に参加して下さい。修士課程で発達心理学関係の授業を受講していることが条件となります。
- 連絡先・オフィスアワー 堂野研究室 (5449)・水曜日 (10:30～12:00)

開設科目	東アジア比較文化基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 D1の受講生が、各自のテーマにそって報告を行い、複数の比較文化講座の教官とともに討論を行い、内容を深めていく授業である。
- 授業の一般目標 東アジアの文化に関する基本的な研究態度をやしなう。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 東アジアの文化に関する知識を取得する。 思考・判断の観点： 東アジアの文化に関する研究方法を考える。 関心・意欲の観点： 東アジアの文化研究のための資料をみずから探しだす。

開設科目	開発政策基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	吉村弘				

- 授業の概要 院生の論文テーマに沿った報告を主体にして、それに対するディスカッションを行う。報告は順番で行い、1か月以上先まで予定を示しておくので、報告者は1回の報告についてかなりまとまった報告を求められる。報告に際しては、出席者全員にレジメを配布する。レジメは、報告に相応しい充実したもの、かなりの分量のあるものが求められる。成績評価はこの報告に主に依存する。／検索キーワード 論文作成
- 授業の一般目標 論文作成のための準備、とくにテーマの絞り込みを行う。
- 授業の到達目標／ 関心・意欲の観点：テーマを鋭く設定する。 態度の観点：積極的にテーマを絞り込む。
- 授業の計画（全体） 院生の論文テーマについて報告する。それについて、コメント及びディスカッションを行う。報告に際しては、出席者全員にレジメを配布する。レジメは、はじめは、広く概略的なものでもいいが、次第にテーマを絞り、かなりの分量のあるものが求められる。
- メッセージ 博士課程の学生に対して改めて言うべきことはないが、敢えて言えば、天は自ら助くるものを助く。

開設科目	企業経営基盤演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	米谷雅之				

- 授業の概要 企業経営に関する原理的な理解を得ることを主眼におくとともに、東アジア企業の経営環境に適応する経営思想と経営技法に関する実践的理解を深めることを目的としている。本基盤演習は現代企業組織論を中心とする企業経営分野、製品戦略を中心とするマーケティング戦略分野、韓国企業の労務政策を含む韓国労働市場および労働政策分野、及び市場経済と倫理の関係を説く経済基礎分野によって構成される。

開設科目	東アジア文化論プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	高木智見, 辻正二, 小谷典子, 湯川洋司				

- 授業の概要 東アジア比較文化講座2年生の東アジア（日本以外）を研究領域とする学生が受講する。昨年度に続いて「東アジアの伝統」をキーワードとし、各人が行った文献調査、あるいは 実地調査の結果を発表して、教官を含めて議論しながら指導を受ける。／検索キーワード 東アジア、近代化、祖先崇拜、伝統文化
- 授業の一般目標 1. 1年時の基盤演習で自らの研究テーマについて研鑽を積んだ学生が、自らの研究以外の課題をも処理することができる応用力を身につける。2. 共通テーマのもとに、共同研究することによって相互啓発しながら、自らの研究に応用力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：東アジアの伝統文化を理解する。思考・判断の観点：東アジアの伝統文化が近代化によってどのように変容するかを考える。関心・意欲の観点：テーマに関連する文献を自主的に収集する。態度の観点：積極的に疑問提起をし、討論に参加する。技能・表現の観点：文献を的確に読解し、自らの意見を表現する。
- 授業の計画（全体）受講者各人に自らの研究の観点から「東アジアの伝統」について考えてもらい、関連する文献調査や実地調査の指導を行う。調査の結果はレポートとしてまとめる。
- 成績評価方法（総合）各人の構想力ならびに調査能力を判断する。
- 教科書・参考書 参考書：その都度受講者に指示する。

開設科目	日本文化論プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 D2の受講者が、各自のテーマに沿って報告を行い、複数の比較文化論講座の教官が参加して 討論を行い、内容を深めていく授業である。／検索キーワード プロジェクト演習、日本
- 成績評価方法 (総合) 報告の内容により、教官集団で成績評価を行う。

開設科目	地域政策プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員					

開設科目	国際協力プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	植村高久他				

- 授業の概要 国際協力プロジェクト演習は、課程修了後、国連諸機関、アジア開発銀行、アジア地域協力諸機関、JICA等の諸機関における政策立案者を目指す2年次学生のために開設される複数教官による、ワークショップ、フィールドワークを主にする演習である。データ分析を含む。主たる分野としては、東アジアの開発政策、コンピュータによるシステム分析、東アジアの通商政策・中国の産業政策などである。

開設科目	国際企業経営プロジェクト演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	橋本寛				

- 授業の概要 研究テーマに沿って国際企業経営プロジェクト演習を行う。
- 授業の一般目標 これまでの研究結果について多面的に検討し、論文作成のための基礎的材料を確立する。
- 授業の計画 (全体) 研究報告を中心とした演習形式で行う。
- 成績評価方法 (総合) 出席、報告、およびレポートによる。
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない。 / 参考書： 必要に応じ資料を配付する。
- 連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	比較地域社会論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 比較地域社会研究の枠組みを示し、日本における実証的な地域研究を例示する。／検索キーワード 都市化、コミュニティ、土着型社会、流動型社会、

●授業の一般目標 都市化にともなう地域変動を、実証的に分析する力を養う

●授業の到達目標／知識・理解の観点：都市化にともなう地域変動について説明できる 思考・判断の観点：コミュニティの現況を判断できる 関心・意欲の観点：身近な地域社会を分析する関心を持つ

●授業の計画（全体） テキストを用いて、多様な地域社会の比較分析を試みる

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 産業化と都市化
- 第 2 回 項目 流動型社会論
- 第 3 回 項目 社会移動の諸結果
- 第 4 回 項目 地域社会分析の枠組み
- 第 5 回 項目 土着型社会の現状分析
- 第 6 回 項目 土着型社会の流動化
- 第 7 回 項目 流動型社会の比較分析 I
- 第 8 回 項目 流動型社会の比較分析 II
- 第 9 回 項目 流動型社会の比較分析 III
- 第 10 回 項目 流動型社会の比較分析 IV
- 第 11 回 項目 産業都市のコミュニティ I
- 第 12 回 項目 産業都市のコミュニティ II
- 第 13 回 項目 産業都市のコミュニティ III
- 第 14 回 項目 産業都市のコミュニティ IV
- 第 15 回 項目 総括

●教科書・参考書 教科書：三浦典子『流動型社会の研究』恒星社厚生閣、1991 年／参考書：三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004 年

開設科目	東アジア自然環境論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	貞方昇				

- 授業の概要 博士課程後期レベルの学生に対し、東アジアの人々の生活や生活史と関わる自然環境理解を深める学習を行う。／検索キーワード 東アジア 日本 環境 基盤
- 授業の一般目標 東アジアの生活・生活史と関わる自然環境理解を深める学習を行う。
- 成績評価方法 (総合) 受講学生の研究目的に応じた学習形態をその都度とり、それにより評価する。
- メッセージ 環境や地域と人について考えてもらいます。

開設科目	東アジア周辺社会論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員					

開設科目	古代宮都論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要** 律令国家の成立から衰退に至る歴史と歩みをともした宮都の歴史的展開を明らかにすることを通じ、日本古代律令国家の特質を明らかにする。第二次世界大戦後大きな成果を挙げた宮都の発掘調査で検出された建築遺構、出土文字資料などの遺物を基に具体的な検討を加えるとともに、さらに宮都の制が中国の影響のもと古代から近世の東アジア諸国に広汎に導入された事実を踏まえ、中国をはじめとする東アジア諸国との比較史的観点からも検討を試みる。／検索キーワード 古代、東アジア、都城、宮都、律令制、空間構造、発掘調査、遺跡、遺構、遺物
- 授業の一般目標** 律令国家の成立から衰退に至る歴史と歩みをともした宮都の歴史的展開を明らかにすることを通じ、日本古代律令国家の特質を明らかにする。第二次世界大戦後大きな成果を挙げた宮都の発掘調査で検出された建築遺構、出土文字資料などの遺物を基に具体的な検討を加えるとともに、さらに宮都の制が中国の影響のもと古代から近世の東アジア諸国に広汎に導入された事実を踏まえ、中国をはじめとする東アジア諸国との比較史的観点からも検討を試みる。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点：東アジア諸国における都城について、国毎に概要を説明できる。  
思考・判断の観点：東アジア諸国に共通する都城の差異について、国毎の状況を踏まえて考察する能力、特に様々な史料や資料を用いて論理的に解釈する力を身につける。関心・意欲の観点：東アジア諸国に共通する政治装置としての都城に関心・興味を抱く。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：1, 史料・資料を正しく解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 律令国家の成立から衰退に至る歴史と歩みをともした宮都の歴史的展開を明らかにすることを通じ、日本古代律令国家の特質を明らかにする。第二次世界大戦後大きな成果を挙げた宮都の発掘調査で検出された建築遺構、出土文字資料などの遺物を基に具体的な検討を加えるとともに、さらに宮都の制が中国の影響のもと古代から近世の東アジア諸国に広汎に導入された事実を踏まえ、中国をはじめとする東アジア諸国との比較史的観点からも検討を試みる。
- 成績評価方法（総合）** 授業に関連した研究レポート（400字詰め原稿用紙に換算して30枚程度）を課す。
- 教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし
- メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	現代東アジア論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 日本とアジアの政治的歴史的経済的な相互関係を植民地統治の技術と展開の視点から講義していく。

●授業の一般目標 日本のアジア植民地支配に関連する文献・資料の精読に努め、同時に資料にアクセスする手法や意味を理解する。あくまで双方向的な視角から歴史事実の理解や認識を深めることの重要性を確認する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本のアジア植民地支配の起点
- 第 2 回 項目 日本の台湾侵略と統治（1）
- 第 3 回 項目 日本の台湾侵略と統治（2）
- 第 4 回 項目 日本の台湾侵略と統治（3）
- 第 5 回 項目 日本の朝鮮侵略と統治（1）
- 第 6 回 項目 日本の朝鮮侵略と統治（2）
- 第 7 回 項目 日本の朝鮮侵略と統治（3）
- 第 8 回 項目 日本の満州侵略と統治（1）
- 第 9 回 項目 日本の満州侵略と統治（2）
- 第 10 回 項目 日本の満州侵略と統治（3）
- 第 11 回 項目 帝国日本の崩壊（1）
- 第 12 回 項目 帝国日本の崩壊（2）
- 第 13 回 項目 帝国日本の崩壊（3）
- 第 14 回 項目 全体の纏め（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏め（2）

●教科書・参考書 参考書：日本近代史概説, 瀬瀬厚他, 弘文堂, 2003 年；近代日本政軍関係史の研究, 瀬瀬厚, 岩波書店, 2005 年

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Our PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	日本文学論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	石川 巧				

●授業の概要 文学研究の方法論を取り入れることによって、プロジェクト演習を補完する。近代文学を考えるうえで、読者論あるいは読書行為論はきわめて重要な概念のひとつである。ここでは、社会的・文化的背景や出版メディアとの関わりにおいて、近代日本におけるリアリズムの問題と読書行為の質的変容を解明する。

●備考 集中授業

開設科目	東アジア造形伝承論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	坪郷英彦				

- 授業の概要 東アジアを視野に入れ、日常の暮らし（物質文化）についての研究方法と現在の研究の到達点について講じる。／検索キーワード 東アジア、日常の暮らし、物質文化研究
- 授業の一般目標 文化人類学、民俗学の中で特に物質文化研究を取り上げ講義をします。環境・社会・技術を相互に関連したものとして理解すること、そのための方法を話します。
- 授業の計画（全体） 文化人類学の機能主義の立場からの研究方法を下敷きに、対象を住文化にしぼって話を進める。具体的な調査事例とその成果を示しながら授業を構成する。
- 成績評価方法（総合） 自分の研究に即した理解がなされたかをレポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 適宜資料を配付する。／参考書： その都度紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	中国古代史論特別講義	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 『里耶秦簡』をテキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、受講生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。／検索キーワード 秦簡
- 授業の一般目標 受講生に出土文字資料を読ませて、一層研究の能力を養成することを目標とする。
- 授業の計画（全体） 出土文字を解釈しながら、秦時代社会の実像を説明する。
- 成績評価方法（総合） 成績評価はレポートで行う。

開設科目	中国近世演劇論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 この授業では、中国近世に発達した演劇について、文学史上の特色を概観し、個々の代表的作品をとりあげながら、その魅力について探してみたい。
- 授業の一般目標 中国近世の戯曲演劇史についての理解を深める。
- 授業の計画（全体） 初期の演劇，雑劇，南戯のほか，江戸時代における中国演劇の受容についても言及する。
- 成績評価方法（総合） レポート提出。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布。

開設科目	東アジア社会経済論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員					

開設科目	経営工学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	橋本 寛				

- 授業の概要 ネットワークに関する到達可能性、最短経路問題、クリティカルパスなどの問題を代数的に統一して扱う経路代数 (path algebra) の基本的事項について興味ある具体例を用いて紹介する。
- 授業の一般目標 主要な概念やアルゴリズムの考え方などを理解する。
- 授業の計画 (全体) 経路代数の定義、基本的性質、代表的な例、経路代数上の行列、行列論的解法、基本的アルゴリズム
- 成績評価方法 (総合) 出席およびレポート
- 教科書・参考書 教科書: テキストは使用しない。
- メッセージ 集合、論理、代数、行列、グラフ理論などに関する初歩的知識があれば望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 経済 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	交通経済特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員					

開設科目	情報評価特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	成富敬				

●授業の概要 種々の評価方法について考究する.

開設科目	財務会計特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員					

開設科目	中国経済・ビジネス論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	守野 友造				

●備考 集中授業

開設科目	東アジア経済発展論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	玉村 千治				

●授業の概要 東アジア諸国の経済発展を、(1)「旧アセアン5, 韓国、中国および台湾という東アジア域内」、また「それら諸国・地域に日本および米国を加えた経済地域」の経済相互依存関係の分析を中心にして、各国・地域の経済発展の特徴を解説する。(2) 各産業レベルにおいて国・地域の比較研究を実施し、開発政策との関連もふまえ、国際分業体制の変遷・比較優位等を吟味し、今後の域内経済発展考察の礎を築くようにする。こうした話題の中で、経済統計の扱い、産業構造分析手法などの計量的ツールも紹介する。特に、マレーシア・シンガポールに力点を置く

●備考 集中授業

開設科目	臨床心理学特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	名島潤慈				

- 授業の概要 夢やイメージが臨床心理学において果たす役割、さらには夢やイメージの治療的な活用などについて考究する。／検索キーワード 夢、イメージ、臨床心理学、心理療法
- 授業の一般目標 夢分析やイメージ療法の基礎的な知識と技法を習得していく。また、夢やイメージを用いた心理療法の事例の検討を行う。
- 成績評価方法 (総合) 成績の評価は基本的に、レポートならびに授業における発言内容（例えば論理的な討論が可能であるような内容かどうか）によります。
- 教科書・参考書 教科書：臨床場面における夢の利用, 名島潤慈, 誠信書房, 2003 年／参考書：夢分析と心理療法, 鑪幹八郎, 創元社, 1998 年；明恵 夢を生きる, 河合隼雄, 京都松柏社, 1987 年；中国の夢判断, 劉文英 (湯浅邦弘訳), 東方書店, 1997 年
- メッセージ 夢やイメージの広大な世界を通して、人間の心というものを深く探求してみたいと思います。
- 連絡先・オフィスアワー najima@yamaguchi-u.ac.jp 083-933-5465

開設科目	美術教育論特別講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教員	福田隆眞				

●授業の概要 日本を含めてアジアを中心にした美術教育の教育理念、教育課程、教材研究について解説する。特に、シンガポール、マレーシア、中国について資料を基に検討する。

●授業の一般目標 アジアの特定の国の美術教育の理念と教育課程を理解する。また、資料の検討を行う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：美術教育の理念の特徴を理解する。 関心・意欲の観点：国民文化と美術教育に関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 シンガポールの美術教育
- 第 3 回 項目 同上
- 第 4 回 項目 同上
- 第 5 回 項目 マレーシアの美術教育
- 第 6 回 項目 同上
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 同上
- 第 9 回 項目 中国の美術教育
- 第 10 回 項目 同上
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 同上
- 第 13 回 項目 国民文化としての美術教育
- 第 14 回 項目 創造性育成の美術教育
- 第 15 回 項目 アジアの文化と美術教育

●メッセージ 資料は適宜配布する。

開設科目	コミュニケーション中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	何暁毅				

- 授業の概要 東アジアで言えば日本や、韓国、モンゴル、そして何より中国です。その中国はいま何が起きているのか、これからどう変わろうとしているのか、どうしても気になります。しかし、中国のことを知ろうとすると、言葉の問題を解決しなければなりません。この授業はその言葉問題を解決するきっかけを作る。／検索キーワード 中国 中国語 コミュニケーション 文化
- 授業の一般目標 中国語コミュニケーション能力を高めることを第一の目標に、言葉の背景として、中国の文化や、社会も紹介し、理解を深める。
- 授業の計画（全体） 受講者のコミュニケーション能力を顧慮し、授業内容と計画を決める。
- 成績評価方法（総合） 出席などで総合評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 受講者の能力を応じて教科書を決める。
- 連絡先・オフィスアワー 研究一号館 310 電話（内線）5065

開設科目	コミュニケーション中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	何暁毅				

- 授業の概要 東アジアで言えば日本や、韓国、モンゴル、そして何より中国です。その中国はいま何が起きているのか、これからどう変わろうとしているのか、どうしても気になります。しかし、中国のことを知ろうとすると、言葉の問題を解決しなければなりません。この授業はその言葉問題を解決するきっかけを作る。／検索キーワード 中国 中国語 コミュニケーション 文化
- 授業の一般目標 中国語コミュニケーション能力を高めることを第一の目標に、言葉の背景として、中国の文化や、社会も紹介し、理解を深める。
- 授業の計画（全体） 受講者のコミュニケーション能力を顧慮し、授業内容と計画を決める。
- 成績評価方法（総合） 出席などで総合評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 受講者の能力を応じて教科書を決める。
- 連絡先・オフィスアワー 研究一号館 310 電話（内線）5065

開設科目	コミュニケーション・ハンゲル	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	和田学				

●授業の概要 この授業では韓国語/朝鮮語の初歩を学ぶ。文字、発音に加え、基礎的な文法を学ぶ。／検索キーワード ハンゲル

●授業の一般目標 この言語の文字、発音、基本的な文法を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：文字、発音、基本文型の修得 関心・意欲の観点：この言語を使う文化に関心を持つ。技能・表現の観点：簡単な会話、読解ができる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 基本母音 内容 基本となる母音を学ぶ。
- 第 2 回 項目 平音 内容 子音のうち、平音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 3 回 項目 パッチム 1 内容 音節末の子音について学ぶ。
- 第 4 回 項目 パッチム 2 内容 音節末の子音について学ぶ。
- 第 5 回 項目 激音 内容 子音のうち、激音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 6 回 項目 濃音 内容 子音のうち、濃音と呼ばれる子音を学ぶ。
- 第 7 回 項目 複合母音 内容 基本母音字を組み合わせて作る母音を学ぶ。
- 第 8 回 項目 発音の法則 1 内容 子音字が連続した場合に起こる音の変化を学ぶ。
- 第 9 回 項目 発音の法則 2 内容 子音字が連続した場合に起こる音の変化を学ぶ。
- 第 10 回 項目 A は B です 内容 「A は B です」の表現を学ぶ。
- 第 11 回 項目 A は B ではありません 内容 「A は B ではありません」の表現を学ぶ。
- 第 12 回 項目 疑問詞、hapnita 体と heyo 体 内容 疑問詞と、丁寧形の二つの文体について学ぶ。
- 第 13 回 項目 存在を表す表現 内容 存在を表す表現を学ぶ。
- 第 14 回 項目 固有語の数詞 内容 数詞のうち、韓国語に固有の数詞を学ぶ。
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法 (総合) この授業の前半では、文字と発音、発音の法則について学び、これと並行して、日常よく使われる表現についても学びます。後半では、基本的な文型や、数の表現を学びます。

●教科書・参考書 教科書：聴いて覚える初級朝鮮語, 河村光雅、田星姫, 白水社, 2002 年; 河村光雅・田星姫「聞いて覚える初級朝鮮語」白水社／参考書：辞書に関しては授業中に指示。

●連絡先・オフィスアワー 連絡先：wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室：人文棟 2 階、オフィスアワー：木曜日 10:00-17:00

開設科目	コミュニケーション・ハンゲル	区分		学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	和田学				

- 授業の概要 前期の内容を元に、より高度な構文を修得する。／検索キーワード ハンゲル
- 授業の一般目標 前期の内容を基礎に、日常よく使われる様々な表現を修得する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 多様な構文、語彙の修得 関心・意欲の観点： この言語を用いる文化に関心を持つ。 技能・表現の観点： 簡単な文の読解、作文、初歩的な会話ができるようになる。
- 授業の計画（全体） この授業では、基本的な活用、助詞などの文法項目、日常よく使われる構文などを学びます。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 漢数詞 1 内容 漢語の数詞を学ぶ。
  - 第 2 回 項目 漢数詞 2 内容 漢語の数詞を学ぶ。
  - 第 3 回 項目 hpnita 体、助詞「を」 内容 動詞・形容詞の丁寧形と対格助詞を学ぶ。
  - 第 4 回 項目 助詞 1 内容 助詞を学ぶ。
  - 第 5 回 項目 助詞 2 内容 助詞を学ぶ。
  - 第 6 回 項目 否定文 内容 様々な否定文を学ぶ。
  - 第 7 回 項目 敬語 内容 敬語の作り方を学ぶ。
  - 第 8 回 項目 heyo 体 内容 親しみのある丁寧形を学ぶ。
  - 第 9 回 項目 過去形 内容 過去形を学ぶ。
  - 第 10 回 項目 指示・アドバイス 内容 指示・アドバイスの構文を学ぶ。
  - 第 11 回 項目 意志・未来 内容 意志・未来の構文を学ぶ。
  - 第 12 回 項目 勧誘・提案 内容 勧誘・提案の構文を学ぶ。
  - 第 13 回 項目 依頼 内容 依頼の構文を学ぶ。
  - 第 14 回 項目 願望 内容 願望の構文を学ぶ。
  - 第 15 回 項目 試験
- 成績評価方法 (総合) 定期試験と小テストを課します。出席、宿題は欠格条件とします。
- 教科書・参考書 教科書： 「聞いて覚える初級朝鮮語」, 河村光雅・田星姫, 白水社, 2002 年
- 連絡先・オフィスアワー 連絡先： wadagaku@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室： 人文棟 2 階、オフィスアワー： 木曜日 10:00-17:00

開設科目	コミュニケーション英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 英語によるコミュニケーション能力を養成する。授業は全て英語で行う。基本的にはテキストのタスクを中心に授業を進めるが、受講者のレベルやニーズに応じて臨機応変に内容を変更・調整することもある。／検索キーワード 英語、コミュニケーション
- 授業の一般目標 (1) 英語の四技能をバランス良く習得する。(2) 母国語を介さず、英語で理解し、考え、発言する姿勢を体得する。(3) 基本的な会話表現や文法事項を理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 提示された課題を理解し、自己の考えを英語で説明できる。(2) 英語の文法事項が理解できる。思考・判断の観点：(1) 的確な状況判断に基づいて、諸場面に即した英語表現を選択できる。関心・意欲の観点：(1) 英語で積極的に自己表現することに関心を持つ。態度の観点：(1) 常に問題意識を持ってディスカッションに参加できる。
- 授業の計画（全体）前期の授業ではテキストの Unit1 から Unit6 までの内容を学習する。各 Unit を 2-3 回程度で 終了する予定である。
- 成績評価方法（総合）(1) 試験は期末に一回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：教科書名:Passages 2 著者名:Jack C. Richards & Chuck Sandy 出版社名:Cambridge UP
- メッセージ 単位取得を前提条件として受講を許可する。受講者は無断で欠席や遅刻をしないこと。
- 連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部6階

開設科目	コミュニケーション英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 英語によるコミュニケーション能力を養成する。授業は全て英語で行う。基本的にはテキストのタスクを中心に授業を進めるが、受講者のレベルやニーズに応じて臨機応変に内容を変更・調整することもある。／検索キーワード 英語、コミュニケーション
- 授業の一般目標 (1) 英語の四技能をバランス良く習得する。(2) 母国語を介さず、英語で理解し、考え、発言する姿勢を体得する。(3) 基本的な会話表現や文法事項を理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：(1) 提示された課題を理解し、自己の考えを英語で説明できる。(2) 英語の文法事項が理解できる。思考・判断の観点：(1) 的確な状況判断に基づいて、諸場面に即した英語表現を選択できる。関心・意欲の観点：(1) 英語で積極的に自己表現することに関心を持つ。態度の観点：(1) 常に問題意識を持ってディスカッションに参加できる。
- 授業の計画（全体）後期の授業ではテキストの Unit7 から Unit12 までの内容を学習する。各 Unit を 2-3 回程度で 終了する予定である。
- 成績評価方法（総合）(1) 試験は期末に一回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：教科書名:Passages 2 著者名:Jack C. Richards & Chuck Sandy 出版社名:Cambridge UP
- メッセージ 単位取得を前提条件として受講を許可する。受講者は無断で欠席や遅刻をしないこと。
- 連絡先・オフィスアワー ikezono@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部6階

開設科目	コミュニケーション日本語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 大学院生として必要な日本語能力を実際例に即して身につけていくための授業／検索キーワード 引用、一貫性、一般論、オリジナリティー
- 授業の一般目標 1、学術論文の形式に着目しながら、内容を批判的に読む。 2、論文のテーマに関する目的と意義について考える。 3、テーマにそった研究方法と手順について検討する。 4、日本語での一貫性のある論述のしかたについて考える。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1、論文とエッセーまたは教科書的な記述の違いを検討する。 2、日本語の文体の統一に関する知識 3、引用のしかたに関する知識 思考・判断の観点： 1、一般論と具体例の関係 2、一般論とオリジナリティーの関係 3、過度の一般化の問題 技能・表現の観点： 1、書き言葉と話し言葉の関係：論文と口頭発表の関係 2、説得力のある言語表現
- 授業の計画（全体） 上記のような目標を達成するために対話的な授業を展開する。個別のかかえる問題をゼミ形式でとらえ、解決の糸口を探す。
- 成績評価方法（総合） 出席と発表を重視し、テストは実施しない。
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：プリント配布
- メッセージ 専門分野は違っても参加を歓迎します。火曜7・8時限に変更する可能性が高いです。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415 - 8203

開設科目	コミュニケーション日本語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 大学院生として必要な日本語を身につけ、困難な状況に対処していけるようにする／検索キーワード 前期に同じ
- 授業の一般目標 前期に準じ、さらに発展を目指す。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期に準じる 思考・判断の観点： 前期に準じる 技能・表現の観点： 前期に準じる
- 授業の計画（全体） 前期に準じる
- 成績評価方法（総合） 出席と発表を重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： プリント配布
- メッセージ 前期に同じ
- 連絡先・オフィスアワー 前期に同じ